

ESG・SDGs投信が追加型公募(除くETF)で大きな存在に ～投信全体でもNISA向けファンド新規投資家でも人気はグローバル株と 米国株とテクノロジー株! つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信) で人気は米国株とグローバル株とアセットアロケーション!!～

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治

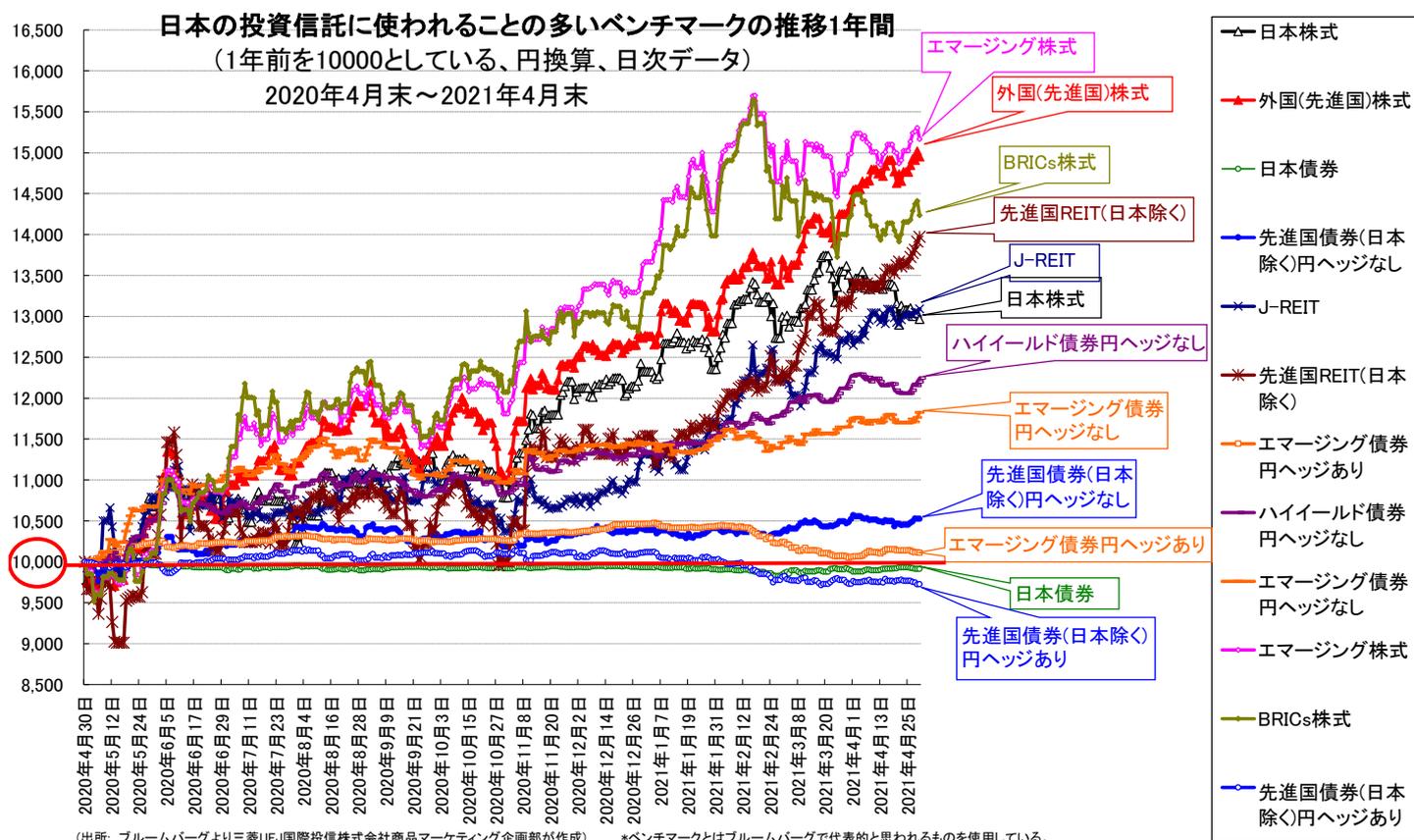
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

窪田 真美

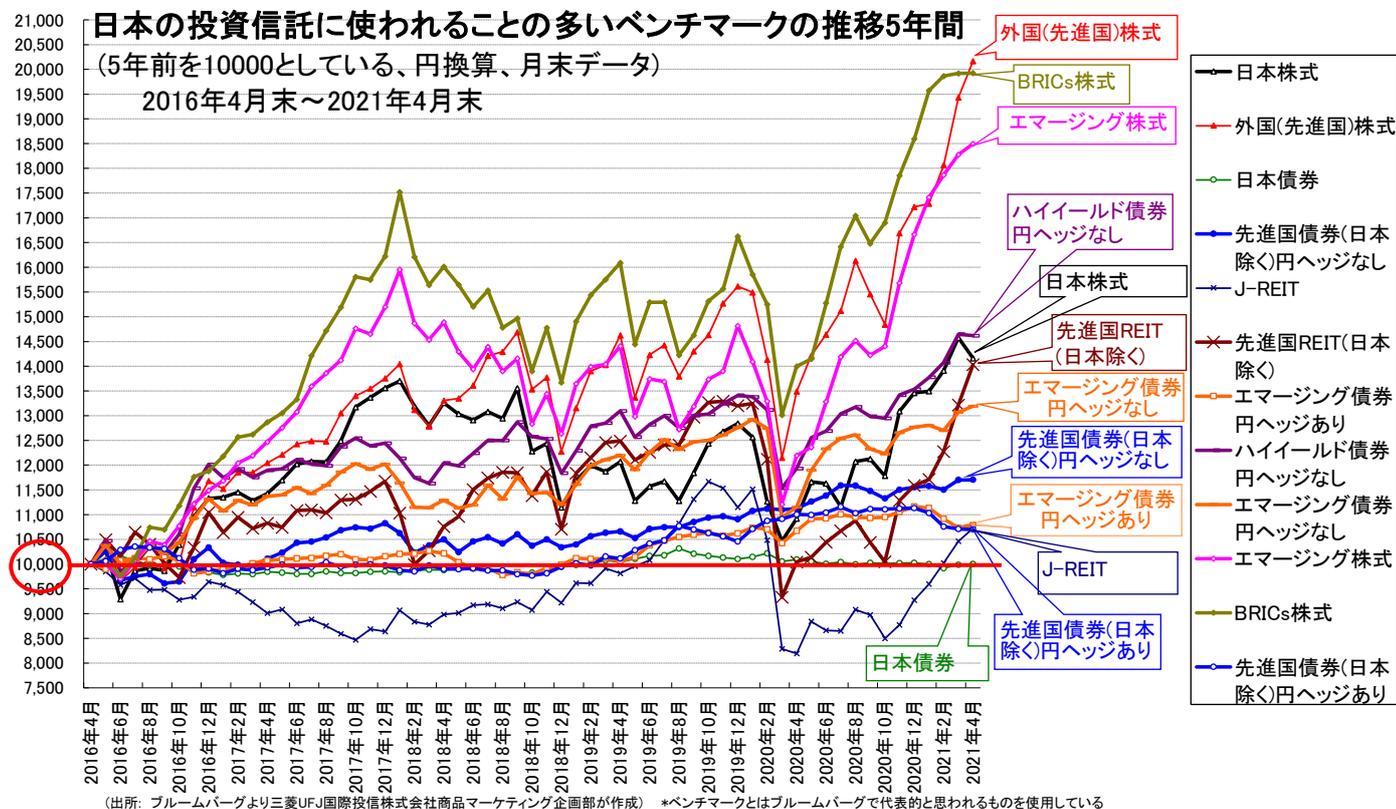
NISA で先進国株を選んでいけば 1年+50%、3年+52%、5年+102%(手数料等考慮せず)の好リターンで非課税メリット享受!

2021年5月6日付日本経済新聞電子版に「過去3年の運用成績 海外株式型が上位占める」という見出しで「個人マネーは正直で、昨年度は海外株式で運用する投資信託は資金流入超だが、国内株式型は流出超。運用成績も個人の投資姿勢が正しいことが裏付けられる。全投信の過去3年の運用成績(21年3月末時点)を調べた。上位は海外株式型が占め、国内株式型は10位の『企業価値成長小型株ファンド』のみ。」と出ていた(2021年5月6日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]①参照)。

そこで、直近まで日本の投信がどうなっているかを見るべく、日本の投信に使われる事の多いベンチマークについて、2021年4月末までの1年間パフォーマンス推移を見た。好い順に、エマージング株式、先進国株式、BRICs株式、先進国REIT、J-REIT、日本株式、ハイールド債券、エマージング債券、先進国債券などとなっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。



5年のパフォーマンス推移も見た。下記がそれで、好い順に、先進国株式、BRICs株式、エマージング株式、ハイイールド債券、日本株式、先進国REITなど(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



先進国株式のパフォーマンスは、1年ではエマージング株式に次いで好く、3年・5年では最も好いパフォーマンスだった。NISAの非課税期間は5年間で、NISAで先進国株投信を選んていれば、新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的流行)など急落する局面が何度かあったものの、下記テーブルの通り、1ヶ月+4%、3ヶ月+17%、6ヶ月+36%、1年+50%、3年+52%、5年+102%(手数料等考慮せず)の好リターンで非課税メリット享受となった事であらう。

日本の投資信託に使われることの多いベンチマークの円換算パフォーマンス(単位:%)
～5年パフォーマンスの高い順～ *年率換算せず

| 指数名 | 1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 1年 | 3年 | 5年 |
|--------------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 1 外国(先進国)株式 | +4 | +17 | +36 | +50 | +52 | +102 |
| 2 BRICs株式 | +0 | +2 | +18 | +42 | +24 | +99 |
| 3 エマージング株式 | +1 | +6 | +28 | +52 | +24 | +85 |
| 4 ハイイールド債券円ヘッジなし | -0 | +6 | +13 | +22 | +21 | +46 |
| 5 国内株式 | -3 | +5 | +20 | +30 | +7 | +42 |
| 6 先進国REIT(日本除く) | +6 | +20 | +40 | +40 | +30 | +40 |
| 7 エマージング債券円ヘッジなし | +1 | +3 | +8 | +18 | +17 | +32 |
| 8 外国(先進国)債券円ヘッジなし | +0 | +1 | +3 | +5 | +11 | +17 |
| 9 エマージング債券円ヘッジあり | +0 | -3 | -1 | +1 | +6 | +8 |
| 10 国内不動産/REIT | +3 | +12 | +26 | +31 | +19 | +7 |
| 11 外国(先進国)債券円ヘッジあり | -0 | -3 | -4 | -3 | +8 | +7 |
| 12 国内債券 | +0 | +0 | -0 | -1 | +1 | +0 |

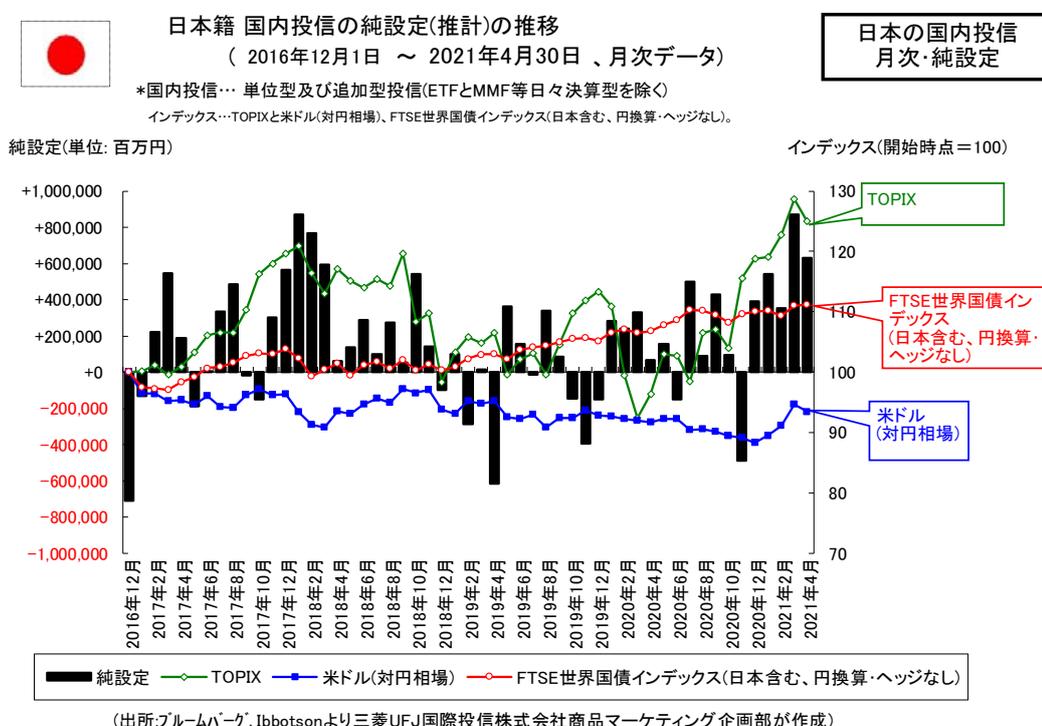
(出所：ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成) *ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している。

ESG・SDGs 投信が追加型公募(除くETF)で大きな存在に ～最新の投信全体のフロー、NISA 向けファンドのフロー、つみたて NISA のフロー～

続いて恒例の日本の NISA 投資で 2021 年 4 月、どの様なファンドが買われたかを見る。当コラムでは投資家を「既存投資家」と「新規投資家」とに分けている。前者の「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、後者の「新規投資家」は「NISA 向けファンド」(後述※1 参照)で代替する。これは日本証券業協会が「NISA を利用する層としては、投資経験及び投資資金ともに豊富で比較的年齢の高い層だけでなく、投資経験が浅くまた投資資金が少ない若年層まで幅広く考えられる。」(URL は後述[参考ホームページ]①参照)と言っている事も参考としている。

<投信全体のフロー～既存投資家(投信全体)ではグローバル株、米国株、テクノロジー株～>

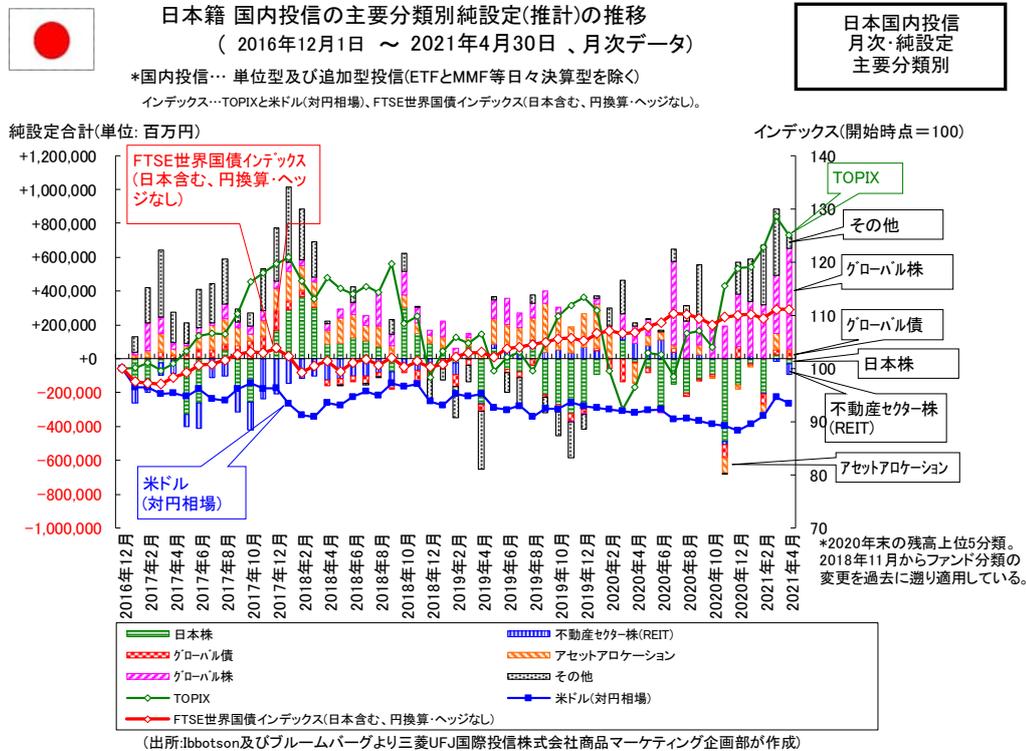
まず、既存投資家の投資を示す投信全体の純設定を見る。最新 2021 年 4 月に+6324 億円と、前月 3 月(+8700 億円)を下回るものの、5 カ月連続の純流入となっている。



2021 年 4 月の既存投資家の純設定を、投資対象別で見よう(主要分類～後述※2 参照)。次頁に示される通り、4 月はグローバル株+5950 億円が最大で、次いで米国株やテクノロジー・セクター株だった(次頁グラフで米国株とテクノロジー・セクター株は「その他」に含む)。グローバル株を個別で見ると 4 月 26 日に 2860 億円という投信史上 3 位の大型新規設定となった ESG・SDGs 投信によるところが大きい(後述※3 参照)。

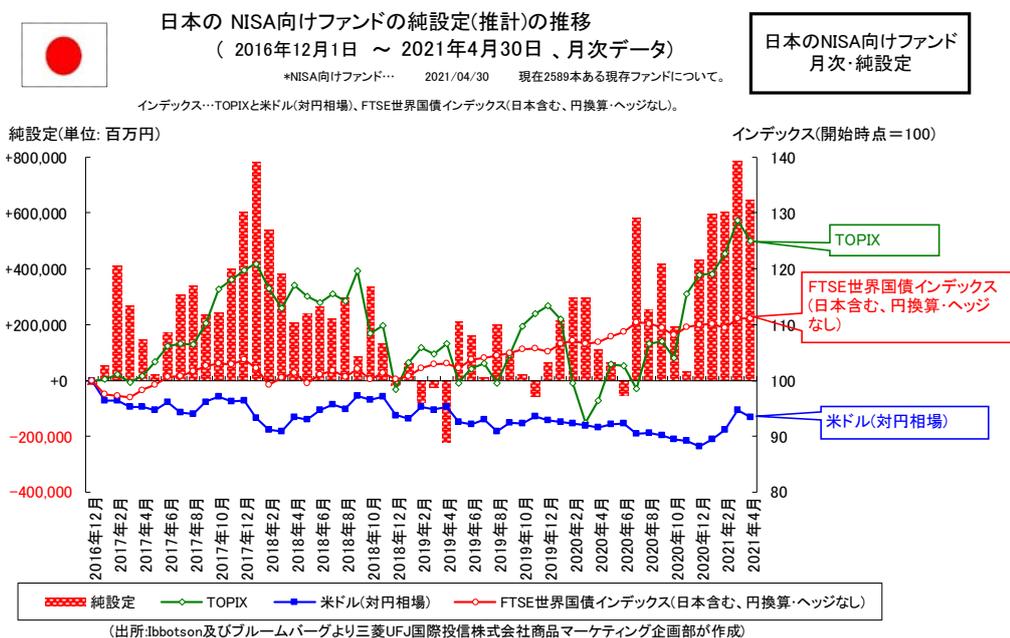
グローバル株は、2021 年(1～4 月)の純設定額が既に+1.5 兆円を超え 2020 年(1～12 月)の約+1.9 兆円を超える勢い(←2018 年+8511 億円←2017 年+6400 億円)。「海外株式で運用する投資信託に人気が集まっている。年初からの資金流入額が多い順にランキングしたところ、主に海外の先進国株式に投資するタイプが上位を占めた。」(2021 年 5 月 13 日付日本経済新聞電子版～URL は後述[参考ホームページ]①参照)。米国株は 4 月 +1030 億円、今年 2021 年(1～4 月)+5570 億円と、24 カ月連続の純流入である。前年 2020 年(1～12 月)に米国株は+1.1 兆円と、テクノロジー・セクター株+8700 億円を上回り、グローバル株+1.9 兆円に次ぐ大きかった。

グローバル株に投資することの多いテクノロジー・セクター株は4月に+883億円と足元やや純流入鈍化。
ただ、2021年(1~4月)の純設定額は+7100億円と米国株(+5570億円)を上回り、前年2020年(1~12月)の+8700億円に迫る(←2019年-8970億円←2018年+8740億円←2017年+1.5兆円)。

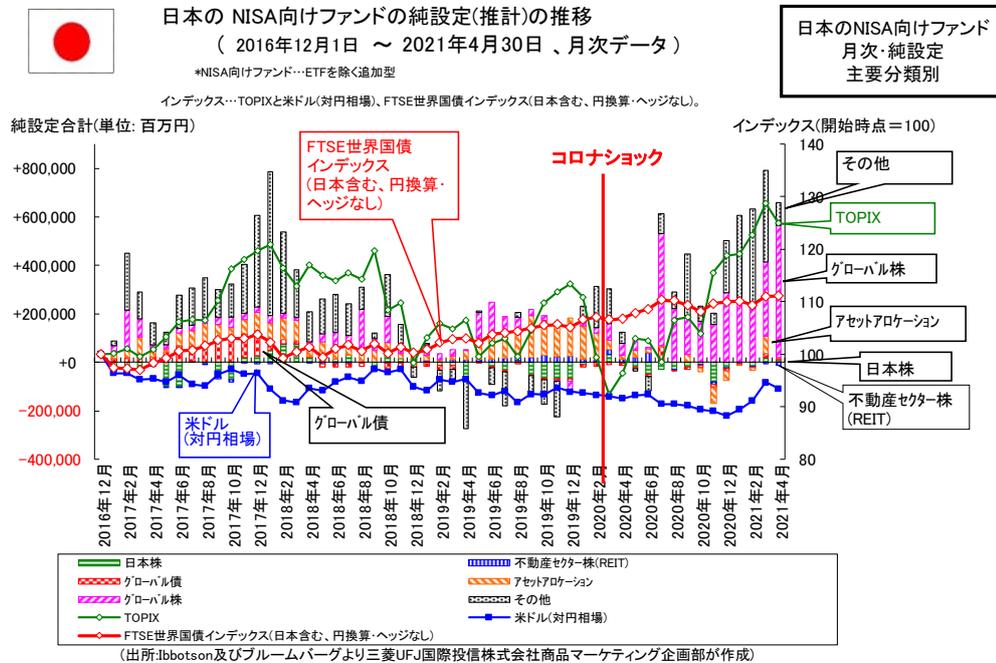


<NISA 向けファンドのフロー～新規投資家はグローバル株、米国株、テクノロジー株～>

次に、新規投資家の投資に近いと思われるNISA向けファンドの純設定(推計)を見る。最新2021年4月は+6443億円と、10カ月連続の純流入。前月3月は+7853億円とつみたてNISAの始まった2018年1月の+7824億円を上回り、NISA開始2014年1月以来で最大の純流入だった(*NISA向けファンド…後述※1参照)。

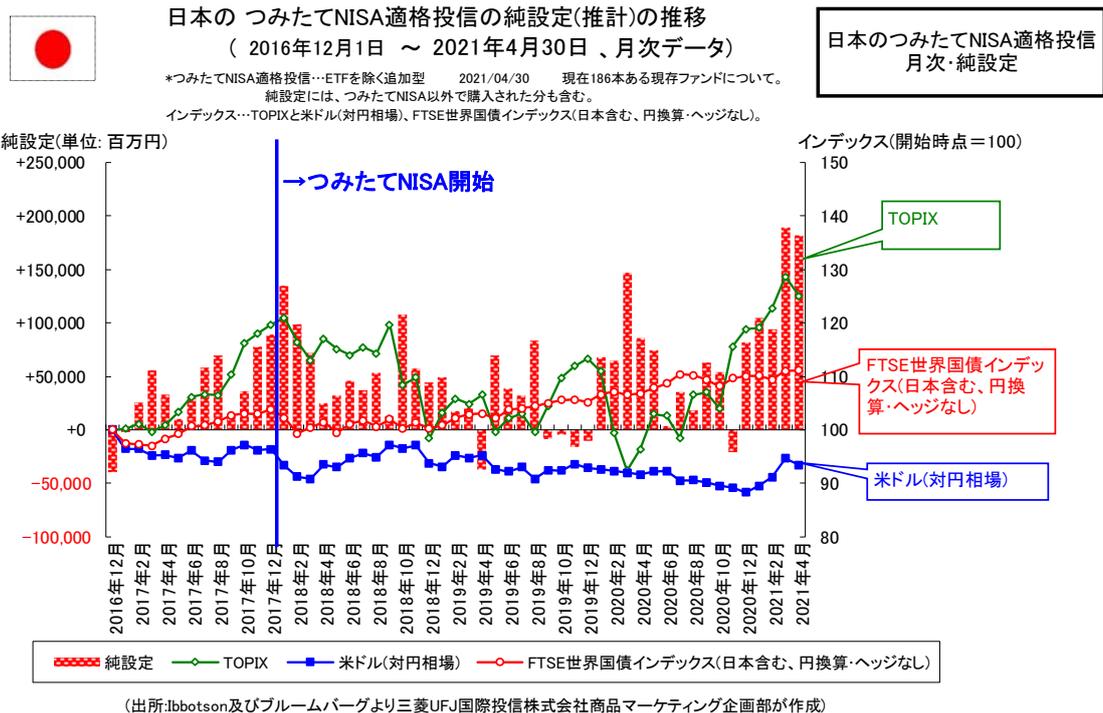


投資対象(主要分類)別に見る。 **2021年4月は既存投資家同様、グローバル株が多く、米国株、テクノロジー・セクター株が次いで多い**(下記で米国株やテクノロジー・セクター株は「その他」に含む～後述※2参照)。米国株は「若年層の新規購入を背景に、米株インデックス投信への資金流入額は20年3月のコロナショックを契機に急増。」(2021年4月20日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]①参照)などと報じられている。

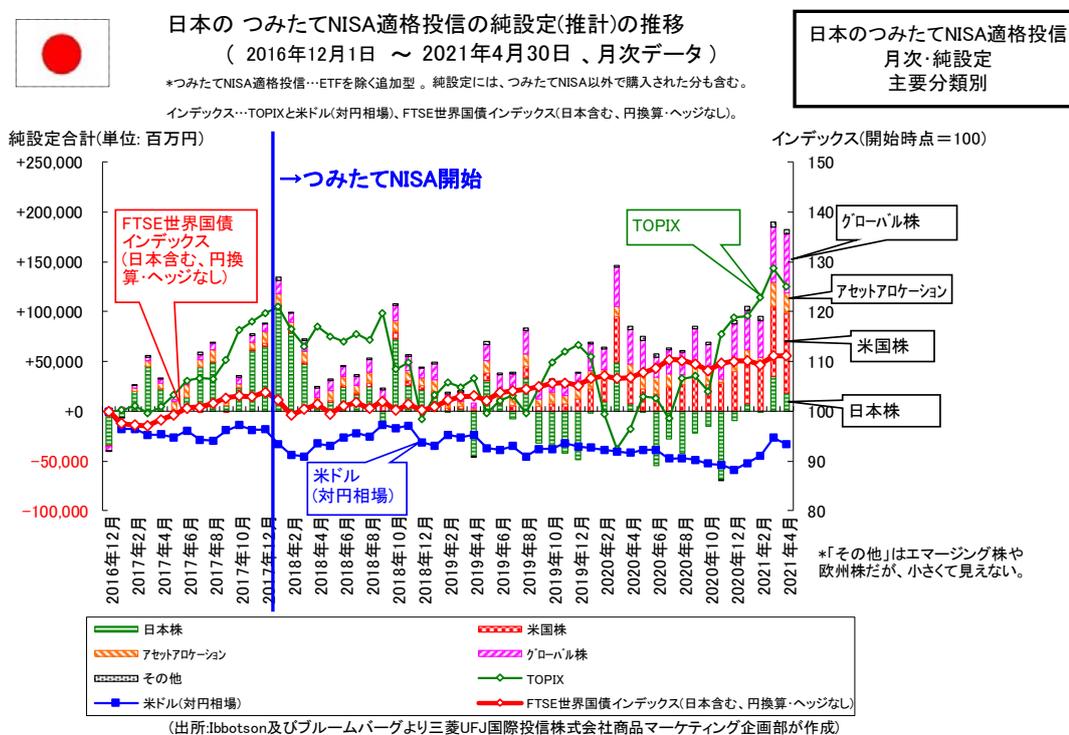


<つみたてNISAのフロー～つみたてNISA投資家は米国株とグローバル株とアセットアロケーション～>

最後に、つみたてNISA投資家の純設定を見る(対象及び要件は2017年4月24日付日本版ISAの道その179～後述[参考ホームページ]①参照)。つみたてNISA適格投信で、つみたてNISA以外で購入された分を含む(ETFを除く)。投信純設定は、2021年4月に+1822億円(←3月+1895億円～開始以来で最大)。



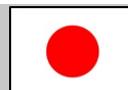
投資対象別では **2021年4月に純設定の大きかったのは米国株、次いでグローバル株、アセットアロケーションだ**。個別では米国株(S&P500)インデックスファンドが大きい様である。



NISA をきっかけに投資を始めた人や若い世代を中心に多い「**どの商品を購入してよいかわからない**」(2020年2月13日付投資信託協会アンケート～後述[参考ホームページ]①参照)とされているものの、NISAで先進国株投信を選び好リターンとなり非課税メリット享受していた投資家は多かったとも言えよう。

NISA をきっかけに投資を始めた人や若い世代はぜひ「先人」の動向も参考にして、資産形成を進めていってほしいものである。

※1: NISA 向けファンド…



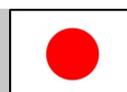
投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは下記参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。

日本証券業協会は「NISA 制度の利用者にとって、短期間に金融商品の買換え(乗換え)を行う又は分配金再投資型の公募株式投資信託につき高い頻度で分配金の支払を受けるといった投資手法等は NISA 制度を十分に利用できない場合がある」(URLは下記参照)、投資信託協会は2013年11月21日に「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」の中で「NISA においては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」と言っている(URLは下記参照)。

尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2021年4月30日時点で2589本となった。

以下、参考URLである。金融庁「つみたてNISAの対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<https://www.toushin.or.jp/mailmag/backnumber/>」、2019年4月26日付日本証券業協会「NISA制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshrase/files/nisaguideline.pdf>」、2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、つみたてNISAの要件は2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am.mufj.jp/text/oshrase_170424.pdf」。

※2: 主要分類…

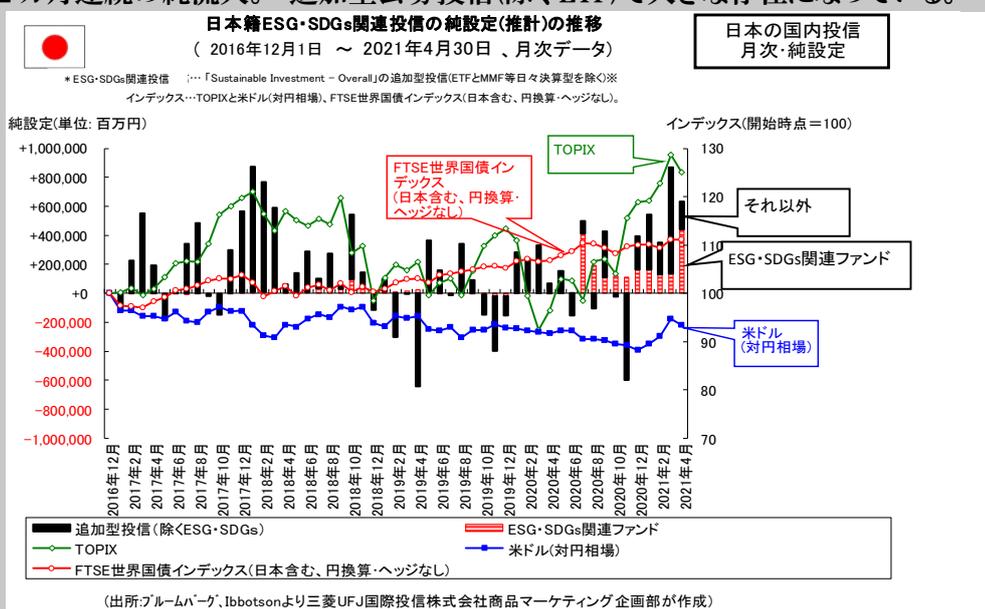


モーニングスター分類で2020年12月末の純資産の大きい上位5分類である。グローバル株は、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。米国大型グロース/ブレンド株、CB、テクノロジー・セクター株、公益セクター株、通信株、日本債などは「その他」に含む。

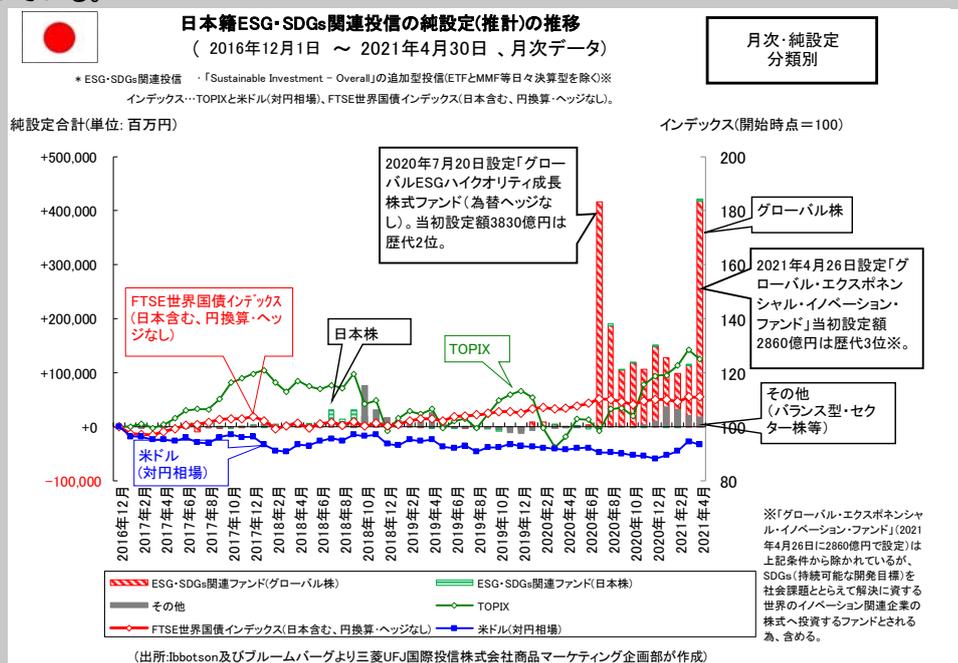
※3: ESG・SDGs 投信が追加型公募投信(除くETF)で大きな存在に!…



日本籍 ESG・SDGs 関連投信(追加型投信、除くETF)は2021年4月末で純資産約2.8兆円、内、グローバル株2.2兆円、日本株2100億円、その他(バランス株やセクター株など)4300億円。2021年4月の純設定額は+4400億円と12カ月連続の純流入。追加型公募投信(除くETF)で大きな存在になっている。



投資対象別ではグローバル株が+4180 億円と大きく、日本株は+33 億円、その他(バランス型、セクター株等)は+183 億円となっている。



当コラムでは、ESG・SDGs 関連投信をモーニングスター・ダイレクト/Morningstar Direct の「Sustainable Investment - Overall」とされるファンドとしている(理由…2020年11月6日付日本版ISAの道 その320「ESGはETF以来の革命、欧州でUCITS以来の最も重要な進化!?’」の中の「※:1世界のESG投信データ」を参照～https://www.am-mufj.jp/text/oshirase_201106.pdf)。

ただ、2021年4月26日に2860億円という投信史上3位の大型新規設定ファンドとなった「グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド」は2021年5月14日現在、Morningstar Directの「Sustainable Investment - Overall」には含まれていない。ブルームバーグ・プロフェッショナル/Bloomberg Professionalも同様である(分類一般属性-ESGには含まれていない)。

しかし、同ファンド目論見書には「**当ファンドでは、SDGs(持続可能な開発目標)を社会課題としてとらえ、銘柄選定を行ないます。**」とある(2021年3月29日付投資信託説明書/交付目論見書～

<https://www.nikkoam.com/api/reports/prospectus/?fundcode=445021>)。モーニングスター・ジャパンも「『グローバル・エクスポネンシャル・イノベーション・ファンド』はアーク社が助言をするESG(環境・社会・企業統治)関連ファンドとして、投資家の高い関心を集めている。」(2021年4月27日付モーニングスター・ジャパン「ファンドニュース」～

https://www.morningstar.co.jp/market/2021/0427/fund_01259.html)と言っている(モーニングスター・ダイレクトの日本ファンド担当は米国モーニングスター100%子会社のイボットソン・アソシエイツ・ジャパン)。

現在ESGファンド(除くETF)で日本最大の「グローバル ESG ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)」(当初設定額史上2位の3830億円)も2020年7月20日設定で2020年8月半ばまで含まれていなかった(8月18日には含まれていた)、ブルームバーグ・プロフェッショナルともども今後、含まれる可能性は高いと思われる。当コラムではいち早く含める事とする。

以上

[参考ホームページ]

①2021年5月6日付日本経済新聞電子版に「過去3年の運用成績 海外株式型が上位占める」…

「<https://r.nikkei.com/article/DGXKZ071590540W1A500C2ENI000?type=my#AwAUgJgwNfc30De1>」、

2021年5月13日付日本経済新聞電子版「年初来の資金流入額上位海外株式型に人気集中」…

「<https://r.nikkei.com/article/DGKKZ071828680T10C21A5ENI000?type=my#AwAUgAANTc30De2>」、

2021年4月20日付日本経済新聞電子版「インデックス投資のイロハ(上)手始めは米国株」日経ヴェリタス 2021年4月18日号より抜粋…「<https://r.nikkei.com/article/DGXZQ0UB069J80W1A400C2000000?type=my#AwAUgAANTc30De2>」、

2020年6月19日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」、

金融庁「つみたて NISA の対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、

つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…

「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」、

2021年2月26日付金融庁「NISA・ジュニア NISA 口座の利用状況調査(2020年12月末時点(速報値))」…

「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20210226/01.pdf>」、

2020年2月13日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査結果-2019年」…

「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2019/>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー:

「各年ごと…<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」、

「2013年2月1日付日本版ISAの道 その1から一気に見る/検索する…

<https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html>」もしくは

Google 等で「投信調査コラム」もしくは「日本版ISAの道」と検索。

本資料に関してご留意頂きたい事項

○当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。

○当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。

○当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

○当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。

○投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

○投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

○投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

○投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

○クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

○投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

・本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。

・ブルームバーグ(BLOOMBERG)は、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピー(Bloomberg Finance L.P.)の商標およびサービスマークです。パークレイズ(BARCLAYS)は、ライセンスに基づき使用されているパークレイズ・バンク・ビーエルシー(Barclays Bank Plc)の商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・パークレイズ・インデックス(BLOOMBERG BARCLAYS INDICES)に対する一切の独占的権利を有しています。